

部落の歴史を読み解く

1 「全国水平社創立の道程」

1922年3月3日、京都の岡崎公会堂で、全国水平社が創立した。部落民自身の手による部落解放を目指す運動は、どのようにして誕生したのか、その道程を明らかにする。

水平社の
成り立ち

2 「全国水平社創立の思想」

全国水平社の創立大会で朗読された「水平社宣言」には、差別からの人間の解放が謳われている。差別のない社会を掲げた水平社の活動の思想とは何か、その内実に迫る。

水平社の
活動・思想

3 「水平社の徹底的糾弾闘争」

水平社はその活動の柱のひとつに「徹底的糾弾」を掲げた。差別をした人に対して、その誤りを糾し、問題を強く訴えるためである。糾弾闘争とはどのようなものか、その具体像を語る。

糾弾闘争
とは？



▼ 2つの視聴方法 目的や環境にあった視聴方法を選ぶことができます

オンライン講座 視聴方法

リバティおおさか 動画配信サイト

<https://liberty.socialcast.jp/>

QRコードからサイトにアクセス ▶



- 1 上記ウェブサイトアクセスし、新規登録
- 2 ご希望のオンライン講座を選択し、お支払い
- 3 視聴準備完了!

講座DVDのご購入

「部落の歴史を読み解く—全国水平社の歴史」

- 1:「全国水平社の道程」(カラー/37分)
- 2:「全国水平社の思想」(カラー/42分)
- 3:「水平社の徹底的糾弾闘争」(カラー/44分)

価格 10,000円+税

お申込 表面の連絡先までお申込みください



▲ 左から：全国水平社創立大会の宣伝ビラ / 全国水平社創立大会の綱領・宣言 / 全国水平社創立メンバー

ハンセン病問題を考える

1 「ハンセン病の歴史と回復者の生活」

2 「ハンセン病回復者として生きる」

ハンセン病は、昔から治らない病気だと思われてきました。そのため、患者は厳しい差別を受け、その家族までもが社会からひどい扱いを受けてきました。国は長く患者を強制的に隔離したため、療養所内から出ることは容易ではありませんでした。現在日本では、ハンセン病にかかる人はおらず、罹患しても治療薬で完全に治ります。

この映像は、ハンセン病患者が受けてきた差別の歴史と、回復者の現在の様子について解説しています。また、全国ハンセン病療養所入所者協議会(全療協)の事務局長・藤崎陸安さんのインタビューでは、当時のご自身の体験を語ってくださっています。

「ハンセン病問題を考える」定価 10,000円+税

▶「ハンセン病の歴史と回復者の生活」(カラー21分)

▶「ハンセン病回復者として生きる」(カラー20分)



部落差別と職業の関係を考える

「牛肉と私たちの暮らし」

いつも私たちが食べている肉は、どのようにつくられているのでしょうか?食肉加工に関わる人々への偏見は、江戸時代から現在に至るまで部落差別と深い関係があります。

このDVDでは、日本において、肉がどのように食べられてきたのか、また、毎日屠場で1頭の牛が牛肉として加工されるまでの作業を詳しく紹介しています。加えて、大阪市内の屠場で働いていた岩本俊二さんが当時の様子やご自身の体験を語ってくださいました。

「牛肉と私たちの暮らし」(カラー/ 14分)

定価 5,000円+税



お問合せ・お申込み

大阪人権博物館(リバティおおさか)

所在地 〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル 5階

電話 06-4301-7783

FAX 06-4301-7784

Email ohrm@liberty.or.jp

